

特集

皆さんとともに歩んで

500号

創刊から54年一。

広報まさきは今月で500号を迎えました。
町民の皆さんとともに歩んできた長い歴史を、
一緒に振り返ってみましょう。

★バックナンバー

平成13年5月号(第294号)
以降の広報まさきは、ホーム
ページで見ることができます。



100号

広報まさきの表紙に使っ
ているロゴマークも、時代と
ともに変わっていきました。

1号



▶(昭和60年3月号)
昭和56年4月号か
らB5判16ページに。
お知らせや町の話、
保育所を紹介する保
育シリーズなどを掲載



広報 まさき
▲(平成11年5月号から)



▲(平成5年7月号)
平成4年5月号からA4判20ペ
ージになり、裏表紙にカレンダーが登場。
昭和61年5月号から表紙がカラーに

200号

き 広報 まさき
▲(昭和61年5月号から)

き 広報 まさき
▲(昭和39年6月号から)

▶(昭和39年6月号)
創刊当時はB5判8ページのモノクロで、年に
2〜3回発行。昭和44年1月号からは、タブロ
イド版4ページに。毎月1日発行は昭和48年1
月号から



▶(平成13年11月号)
平成11年5月号から、季節によってロゴマークを
色分けして発行。黄緑色、青色、オレンジ色、赤色
と3カ月ごとの4変化に

広報 まさき
▲(平成18年4月号から)

広報 まさき
▲(平成13年4月号から)



▲(平成20年10月号)
表紙を一枚写真にし、特集をスタート。
表紙だけでなく裏表紙にもこだわり、
話題の人やグループを紹介する新コー
ナーを配置

◀(平成21年11月号)
全ページをフルカラーに。編集用のシステ
ムを導入し、印刷以外は全て職員が行うこと
で、経費を削減



▲(平成22年3月号)
毎月の巻頭特集が定着。400号で
は「広報まさき」を特集



400号

ま 広 さ き
www.town.masaki.ehime.jp_Public Relations
▲(平成22年5月号から)

広報 まさき
▲(平成28年4月号から)



▲(平成28年4月号)
ロゴマークを一新。えひめ国体に
向けて頑張る選手の紹介や子育ての
ページなどコーナーを新設



▲(平成22年5月号)
若い世代をターゲットに読者層拡
大を目指す。洗練された女性誌を意
識してデザインを一新

リニューアル当時の思いや制
作秘話など、当時の担当者であ
る川上陽子さんにインタビューし
ました。
← 6ページ



◀武井さんファミリー
＝恵久美＝
武井良子さん⑤
武井マツヨさん⑥

33年後...

記事を見て「楽しい思い出がよみがえる」とほぼ笑む良子さん。武井家待望の男の子だった息子の隆平さんを「家族みんなで大切にしてもらった」と話します。良子さんの母、マツヨさんは新聞を読むことと日記を書くことが日課という元気な90歳。これからも、家族仲良く健康に過ごします。

★ 随想

町民が自分の思いをつづるコーナー。昭和61年7月号から平成20年9月号まで続きました。



▶丸田信子さん＝新立＝

108号

★ 町の話

町内でのできごとを紹介するコーナー。現在も「まさきのわだい」として残っています。

▼(昭和60年11月号) 県知事から表彰を受ける
町の話・保育シリーズ



▲武井さんご一家

昭和60年度えひめ家族賞受賞が10月25日愛媛県庁において行われました。3世代の夫婦が同居して、健康な家庭生活を営むとともに、地域社会づくりに貢献している優良な家族を表彰することにより、「家庭における心のふれあい」

えひめ家族賞
武井さんご一家が
受賞

▶(平成5年7月号)
「宝」である「人」と
の出会いを大切に
していきたいと述べる



出逢い
輝く人生

丸田 信子(新立)

随
想

25年後...

25年前の記事を見て「今も考え方は変わらない」と話す丸田さん。長年婦人会の会長を務め、出会う人とのつながりを大切にしてきました。健康の秘訣はおしゃべりできる仲間がたくさんいること。これからも、元気で「輝く人生」を送ります。

200号

★ 家族のきずな

平成22年5月からスタートしたコーナー。友人家族をつなぐリレーは今月で99組です。

404号



◀三津田さんファミリー
＝北黒田＝
(左上から)
倭さん、あかりさん、
久美さん、聡さん、
ヤギのあおくん

▶(平成22年7月号)
「家族のきずな」がスタートしてから3組目のファミリー。当時あかりさんと倭さんは小学生

8年後...

8年間を「あっという間だった」と振り返る三津田さんファミリー。当時社員の聡さんは独立して会社を興し兼業で農業を始め、久美さんは保育士に復帰。理学療法士を目指すあかりさんに、高校でボクシングをしている倭さん。今も変わらず素敵な仲良し家族です。



三津田 聡さん 久美さん
あかりちゃん 倭くん

◎PROFILE
みづた・さとし 会社員。趣味はソフトボールと日曜大工。庭のベンチやリレーは聡さんの手づくり。
みづた・くみ 生まれも育ちも北黒田の36歳。小物づくりが得意。
みづた・あかり 小5。好きな教科は国語と体育。
みづた・やまと 小3。好きな教科は理科と体育。

家族のきずな

皆さんから友人知人の家族をリレーでつないで紹介するコーナーです。お話しが来たらぜひ登場してくださいね。

庭にあるお父さんの手づくりブランコで、会話を愉しみ楽しむ三津田さん家族。
あかりちゃんはジャズダンスにひまわり合唱団、義農太鼓、スライミングと、何にでも興味を持って頑張るお姉ちゃん。「最初は不安だけど、やってみると何でも楽しいよ。お友達もいっぱいいるからうれしい」と明るく話します。弟の倭くんは二重飛びが得意。「僕は全校児童の前で二重飛びを発表したんだよ。79回連続で飛んでかっこよかったよ」とあかりちゃん。最初は全然飛べなかった二重飛びを一生懸命練習して特技にした「頑張りがやさん」です。

母の久美さんは「いっぱいけんかもあるけど、いつもくっついてる二人です。自分の気持ちをはっきり言えて、人の気持ちもしっかり分かって、明るく思いやりのある子になってほしいですね」と子どもたちを優しく見つめながら話していました。

次回は、久美さんのママ友、大森香織さん家族をご紹介します。

「広報まさき」でたどる みんなの思い

昔からいろいろなコーナーを展開してきた広報まさき。節目の号付近で紙面に登場した皆さんに、当時を振り返ってもらいました。

★ こんにちは赤ちゃん

昭和57年8月号からスタートしたコーナー。前々月に誕生した赤ちゃんとお母さんの写真を掲載していました。

本当にわんぱくに育ったという俊彦さん。母の千里さんは「神社で野球をしていてたき火にスライディングしたり、自宅で遊んでいて2階から網戸ごと落ちたり、けがが絶えない子でした」と笑って当時を振り返ります。

当時赤ちゃんだった俊彦さんは、今では4人の子を持つ素敵なお父さんです。

▼俊彦さんと母の千里さん



▲兵頭さんファミリー＝筒井＝

(左から)俊彦さん、心愛ちゃん、沙織さん、美愛ちゃん、
侑愛ちゃん、寿俊くん、千里さん、康則さん

97号

こんにちは赤ちゃん

兵頭 俊彦ちゃん
(10月5日生)



お兄ちゃんに鍛えられてとてもワンバクです。
元気でたくましく育ってほしいと思っています。
(筒井 兵頭 千里)

◀(昭和59年12月号)
3人きょうだいの末っ子という俊彦さん。5つ上のお兄さんと3つ上のお姉さんと、けんかをしながらも元気にたくましく育つ

34年後...

▶(平成27年6月号)
「家族のきずな」にも登場していた兵頭さんファミリー。沖縄好きの仲良し家族



3年後...

463号

3年前と変わらず、毎年沖縄旅行に行くという兵頭さんファミリー。1年前に待望の男の子、寿俊くんが誕生し、ますますにぎやかな6人家族になりました。スポーツが大好きで元気いっぱい3姉妹は、大切な寿俊くんのお世話をする立派なお姉ちゃんになっています。

当時の広報担当者 にインタビュー

平成20年10月号から、「広報まさき」は大幅にリニューアルしました。その時どんな思いがあったのでしょうか。当時の担当者、川上(旧姓 高橋)陽子さんに迫ります。

「広報担当者になったときの気持ちは？」

私は子どものころから、広報まさきが家に届くと「誰か載っていないかな」と探す子でした。入庁後最初に配属されたのが、そんな広報まさきの担当で、嬉しかったです。素敵な広報紙にしようと思いました。

「リニューアルのきっかけは？」

当時、広報紙交換をしていた他市町のレベルの高さに圧倒されたことです。同じ税金で作っているのに、雑誌のようにきれいで読み応えのある広報紙が届くまじと、そうでないまじがあつていいのかと。ごみ箱直行ではなく、少しでも読んでほしいという思いでした。



◎川上陽子さん＝鶴吉＝
昇磨くん(0歳9カ月)
平成20年松前町役場入庁。25年までの5年間広報まさきを担当。役場を退職後、現在はフリーライターをしながら子育て中

それからは「変えたい」という一心で、いいなと思う全国の広報紙を研究したり、担当者と直接交流したり。気付けば入庁後数カ月で、全課向けに「広報まさきリニューアル計画」を協力依頼していました。当時、新人の私に任せてくれた上司や挑戦させてくれた町長には感謝しかありません。

「リニューアルの具体的な内容は？」

コンセプトは「読む広報紙から見ると、いいなと思う全国の広報紙を研究したり、担当者と直接交流したり。気付けば入庁後数カ月で、全課向けに「広報まさきリニューアル計画」を協力依頼していました。当時、新人の私に任せてくれた上司や挑戦させてくれた町長には感謝しかありません。」

さらに22年5月号からは、読者層拡大のためにデザインを一新。町を一つの家族にしたいという思いでリレー形式にした「家族のきずな」、将来を担う子どもたちのたくましさ伝える「頑張る子ども」をスタートさせました。町民をたくさん登場させることにこだわりましたね。

「広報まさきを作る上での苦労は？」

毎月の特集は正直大変でした。企画骨子を作って、取材先を探して、インタビューして、言葉を選ぶ。どうすれば伝わって、町民が動いてくれるかと、企画も人選も編集も毎号必死でした。でもそんな苦労は楽しみでもあり、毎回夢中でした。

「夢中になった広報まさきの魅力は？」

夢中にさせてくれたのは、町民の皆さんです。当時84歳の女性に密着し何日も自宅に通った取材では、「おい。ばあさん。孫が来たぞ」と家族のように迎えてもらいました。他にも、家族のきずなで撮影した写真で年賀状をもらったり、「こんな人がおるけん、いつか取材にお行き」とつないでもらったり。

リニューアル当初は「個人をとり上げるな」という声をもらったり、出てくれる人が見つからずに半泣きになったりすることもありました。それでもまちに出て、取材をして、記事を書いて、1号1号届けているうちに、紙面に登場してくれる人が増え、そんな町民の皆さんに支えられていました。広報担当を離れた今も、子育てをしながらいろいろところでまちのぬくもりに触れ、改めて「松前町は素敵だな、大好きだな」と感じています。



毎月知っている人がいなか探すのが楽しい。

写真を上手に使って見るのが楽しみ。



この赤ちゃんパパ？

懐かしいね。



今は字が大きくなって見やすくなったよね。



色んな情報が分かるからいい。



今でも広報まさきの大ファン。



54年間、たくさんの人の思いでつないだ「広報まさき」取材に行くと、「このコーナーに出ることが憧れだった」と話してくれる人がいます。そんな思いへの感謝を忘れず、これから先も皆さんから愛され続ける広報紙を目指してー。

